

明日をきりひらく子どもたちへ、 世界の今と未来について 考えるキッカケを。



持続可能な世界を次世代に渡していくことは、大人の責任。

そして、そのような考え方を、子どもたちに伝えていくこともまた大切です。
明日をにう子どもたちが、教室の中だけでなく学校生活のいろいろな場面で
SDGsというものにふれ、興味をいだき、考える。そのキッカケとなることを
『SDGsをさがせ!』は目指しています。

使い方

校内の様々な場所に掲示する「貼り紙」を想定し、
SDGsの17のゴールと、北海道における様々な取り組みを
イラストをまじえながら紹介しています。
PDFをプリントアウトしてお使いください。



小学生のみなさんへのメッセージ

北洋銀行から

最近、学校の授業やテレビ、町でSDGsという言葉がよく使われるようになりました。みなさんはSDGsについてどんなことを知っていますか？SDGsは「持続可能な開発目標」という意味の英語Sustainable Development Goalsの略のことで、2015年に国連総会で決められた、2030年までに目指すべき17の目標です。「まじめな人々が取り残され、地球環境は悪化し、このままでは世界が立ち行かなくなる」という強い危機感のもとにつくられました。「持続可能な」というのは、「今だけでなく、ずっと続けていくことができる」とを言います。ですから、SDGsは「将来の世代のための環境や資源をこわさず、今の生活をより良い状態にするための目標」ということです。これらの目標を実現するには、国や企業などのリーダーが協力して行動していくことが大切ですが、みなさんもこれらの目標について考えたり、話し合ったりすること、自分以外の人や地球を大事にして生活していくことが大切です。SDGsと聞くと難しいイメージを持つかもしれませんが、この教材を見てみると、学校や日常での生活のなかでも大きく関わっていることがわかります。この教材を通じて、今のみなさんにできることを考え、行動していくためのヒントを見つけたいと思います。それでは、SDGsについて、一緒に学んでいきましょう！

株式会社 北洋銀行 取締役頭取 **安田 光春**

北海道大学から

「宇宙船地球号」という言葉があります。宇宙から見ると、地球はとても小さく孤独でさみしい宇宙船のようなものです。私たちの宇宙船の中では、いろいろな文化を持ったり、いろいろな考え方を持ったり、いろいろな民族の人たちが一緒に暮らしたりしています。ちょっとけんかしたからといって、簡単に宇宙船から逃げ出すこともできません。現在私たちの宇宙船の中では、資源をめぐる争いがあり、差別や格差があり、船内の温度も上昇しつつあります。こんな状況ではいけない、とみんなが気づき始めました。すべての人のための宇宙船地球号であり続けるために、2015年にみんなが決めたのがSDGsという目標です。宇宙船地球号の船員みんなが、SDGsを理解し、いつも他の船員のことを気にしてくれるやさしい人になってほしいと思っています。北海道大学は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

北海道大学理事・副学長(国際、SDGs担当)
北海道大学サステイナビリティ推進機構 SDGs事業推進本部 本部長 **横田 篤**